

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel:0120-232-711(通話料無料)
上場市場	大阪証券取引所JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.lachd.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

ご回答いただいた方の中から抽選で
薄謝(図書カード 500 円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。
●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」TEL：03-5777-3900(平日 10：00～17：30) MAIL：info@e-kabunushi.com

単元未満株式の買増・買取請求について

単元未満株式(当社の場合、100株に満たない株式)を所有される株主様には、単元未満株式の買増・買取の2つの制度がございます。株主様のご所有状況に合わせてご利用ください。

●買増制度

お手元の単元未満株式と合わせて1単元(100株)となるように、当社に対して単元未満株式の売り渡しを請求できる制度。

●買取制度

お手元の単元未満株式を、当社に対して時価でご売却いただける制度。

具体的なお手続きにつきましては、証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引の証券会社等にお問合せください。

また、特別口座に記録されている株主様は、株主名簿管理人連絡先へお問合せください。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

●アンケート実施期間は、本報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。



<http://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 3857

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

ラックホールディングス 株式会社

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー
<http://www.lachd.co.jp/>
(お問合せ) 広報部 Tel：03-6757-0107 E-mail：ir@lachd.co.jp

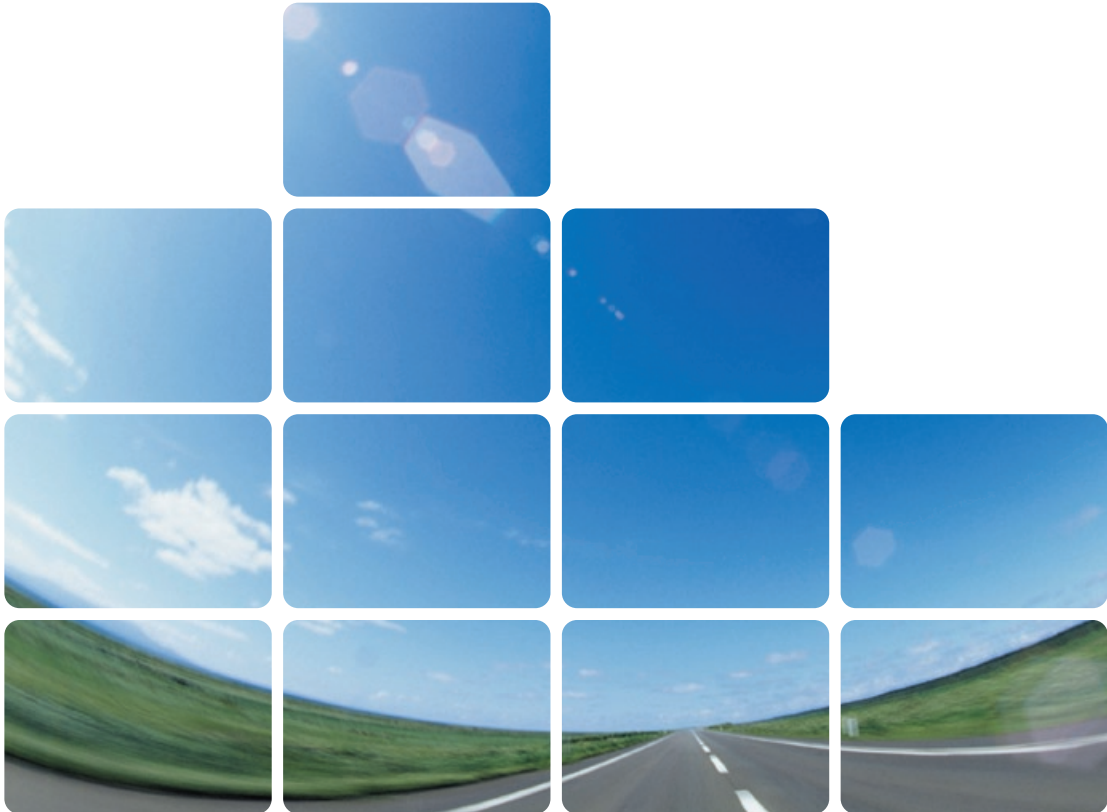
Business Report Vol.7



Business Report

第4期 年次報告書

2010.4.1～2011.3.31



ラックホールディングス 株式会社

証券コード：3857

強い会社 創成

株主ならびに投資家の皆様には、平素より格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、このたびの東日本大震災により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、私どもは本年6月の株主総会でご承認いただき、取締役会の決議により代表取締役会長および代表取締役社長に就任し、ラックホールディングスグループの舵取りを担うこととなりました。第4期年次報告書をお送りするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における情報サービス業界は、企業のIT投資に一部改善がみられたものの全体として抑制が継続される厳しい環境でありました。このようななか、役職員一丸となり、グループ総合力を活かした事業展開、コスト低減の徹底、組織のスリム化と要員配置の適正化など効率的な経営の推進に積極的に取り組み、計画を上回る業績を達成することができました。

また、私どもは来年4月1日付で経営体制を強化すべく完全子会社3社を吸収合併し、純粋持株会社が



代表取締役会長

三柴 元



代表取締役社長

米田 光伸

ら事業持株会社へと移行することいたしました。移行するにあたり、今期は、「強い会社 創成」をテーマに掲げ、重要な経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」への投資とその活用を再点検し、これまで以上に効率的な活用を図ってまいります。

新体制のもと、各事業会社の強みを活かし、LACは、セキュリティ市場における差別化により高い収益率の追求、A&Iは経営基盤の磐石化を図るべく営業利益の拡大、ITCはマーケットシェアの伸長を図り高い成長性の追求にグループ挙げて取り組んでいく所存でおります。

株主ならびに投資家の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第4期決算ハイライト Financial Highlights

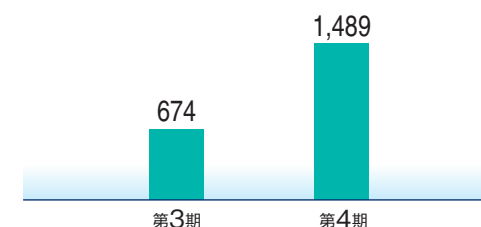
決算のポイント

お客様のIT投資が引き続き抑制されるなか、グループ総合力を活かした提案活動により増収を確保

オフィスの集約や組織のスリム化など徹底したコスト低減に努め、計画を上回る収益改善を達成

営業利益

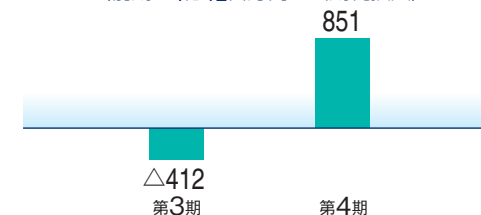
14億89百万円(前期比120.8%増)



当期純利益

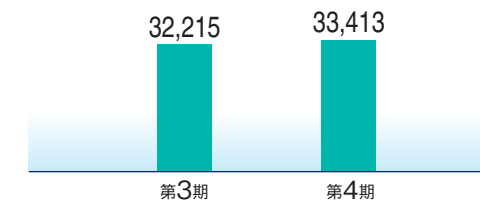
8億51百万円

(前期は4億12百万円の当期純損失)



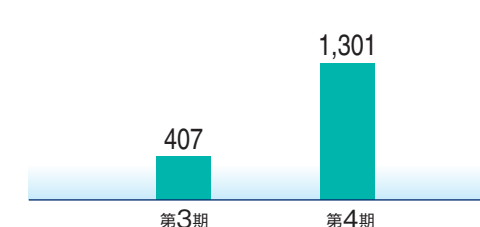
売上高

334億13百万円(前期比3.7%増)



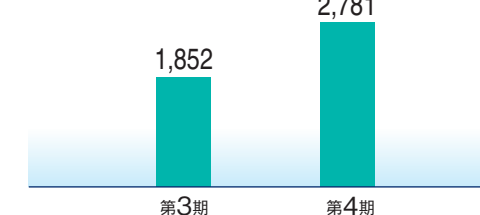
経常利益

13億1百万円(前期比219.3%増)



EBITDA

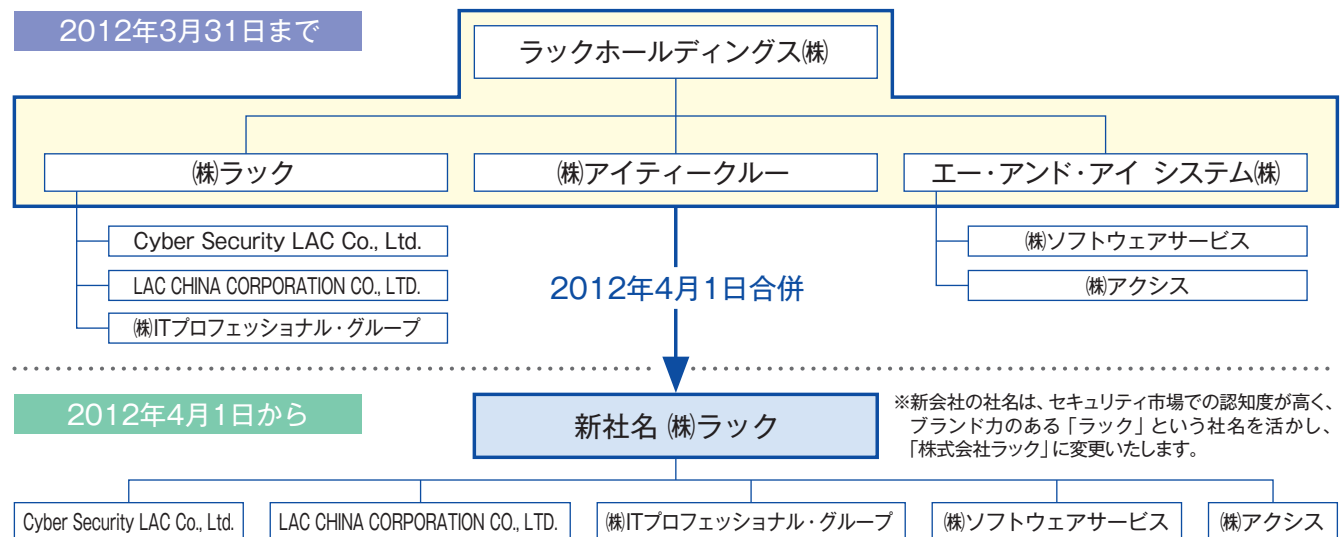
27億81百万円(前期比50.2%増)



2012年4月1日、新生・LACがスタートいたします。

当社は2012年4月1日付で、完全子会社であるセキュリティソリューションサービス事業の(株)ラック、システムインテグレーションサービス事業のイー・アンド・アイ システム(株)、ディーラー事業の(株)アイティークルーの3社を吸収合併して、『新生・LAC』として生まれ変わり、IT総合ソリューションの提供により、社会インフラを支え続けてまいります。

■ 合併の形態



■ 新生・LACの目指すもの

新生・LACが、持続可能性の高い経営を実現するため、以下の課題に取り組みます。

- ①お客様のビジネス革新に貢献する、お客様に必要とされる最適なサービスの提供
- ②顧客基盤の共有による市場拡大
- ③コストの適正化による収益構造の改革
- ④セキュリティなど成長分野へのグループ経営資源の最適配分
- ⑤意思決定の迅速化による機動的な組織運営と効率的な業務運営

さらなる競争力の強化と収益力の向上を目指します。

グループのスペシャリティ

vol.3 ディーラー事業

ディーラー事業の中核企業である「株式会社アイティークルー」について、ご紹介します。

株式会社アイティークルー

〔社員数〕230名（2011年3月31日現在）〔設立〕2008年7月17日〔代表取締役社長〕怒和 秀昭

『システムエンジニアの高い技術力で、お客様のクラウド環境を支える技術者集団企業』

Top Message



当社は、大手都市銀行様のオープンシステム、国公立の研究機関などにおけるハイパフォーマンス・コンピューティング・システム、またインターネットプロバイダー様の先進システム等の構築に携わり、オープン基盤系におけるノウハウを長年培ってまいりました。

IT業界においてインターネットの出現に次ぐ大きな技術革新であるクラウド・コンピューティングは、お客様の現有システムに大きな変革をもたらすものと確信しております。

従来の自社保有型システムからパブリックリソースの活用等まで、お客様の用途に合わせて多様なご要望にお応えするため、主要メーカーのパートナー化により豊富な品揃えを実現し、大手クラウド・サービス提供者との提携によりクラウド・コンピューティング・サービスの提供を推進することで、ますます多様化するお客様システムの企画・計画から構築・保守までのトータル・サービスを提供してまいります。

サービス紹介

■ 多様化するお客様IT環境の最適化を実現するクラウド・コンシエルジュ・サービス

IBM社が高い専門性とスキルを持つパートナーに対して認定している『仮想化技術によるIT最適化』最高位資格(IBM Dynamic Infrastructure Specialty Elite)の取得企業として、多様な選択肢の中から、より効率性の高いお客様システムの実現に向けたクラウド環境デザイン、推進計画を支援します。

■ 仮想化統合インフラ構築サービス

大手銀行様にて長年培ってきた構築・運用ノウハウを有するシステムエンジニアが、お客様の体制や要望を踏まえ、効率的なシステム運用の実現を目指した基盤統合整備を支援します。

最近のシステム動向と当社の取り組み

■ 急速に普及していくスマートフォン、タブレット端末の業務活用に向けたモバイル環境の改善支援

スマートフォン、タブレット端末の普及に伴い、モバイル環境を容易にかつローコストで実現できることにお客様の関心が高まっています。

「安く、安全に(セキュア)、早く」をキーワードにラックホールディングスグループの英知を結集し、必要な機能をパッケージングし、お客様のモバイル環境のさらなる改善を支援します。

■ 東日本大震災によるIT環境変化への対応

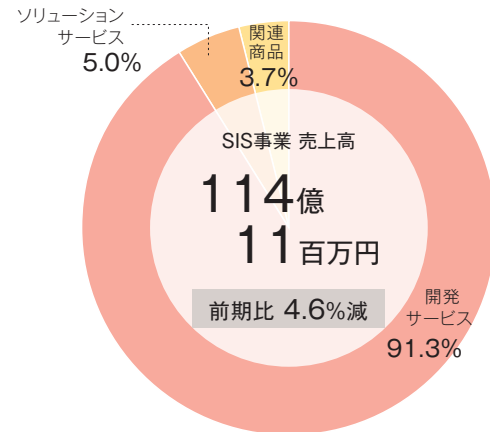
大手クラウドサービス提供者と提携し、電力不足対応、事業継続、災害対策を支援するクラウド・コンピューティング・サービス、さらに実装ソリューションをお客様のご要望にあわせたサービスとして提供します。



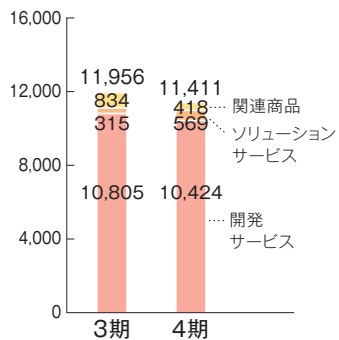
SIS事業(システムインテグレーションサービス事業)

企業のIT投資が抑制されるなか、クラウド環境でのシステム開発やスマートフォン、タブレット端末におけるシステム開発案件を受注するなど新技術への対応力を更に強化するとともに、既存お客様からの受注の継続・拡大にあわせて、ソリューションサービスの整備・展開に取り組み、売上高は114億11百万円(前期比4.6%減)、営業利益はプロジェクトの品質管理の強化や稼働管理の徹底により、16億27百万円(同13.7%増)となりました。

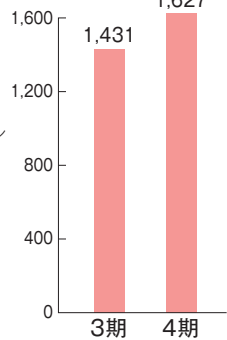
売上高(サービス別)



売上高
(単位:百万円)



営業利益
(単位:百万円)



■ 開発サービス

売上高 **104億24百万円** 前期比 3.5%減

クレジットカード業、銀行業および一部製造業向けの案件が拡大したものの、証券業、人材派遣業向けなどの案件の受注が減少したことに加え、当社子会社「株式会社保険システム研究所」の譲渡などにより、売上高は104億24百万円(同3.5%減)となりました。

■ ソリューションサービス

売上高 **5億69百万円** 前期比 80.1%増

前年度に受注した自治体向け新規案件が寄与し、売上高は5億69百万円(同80.1%増)となりました。

■ 関連商品

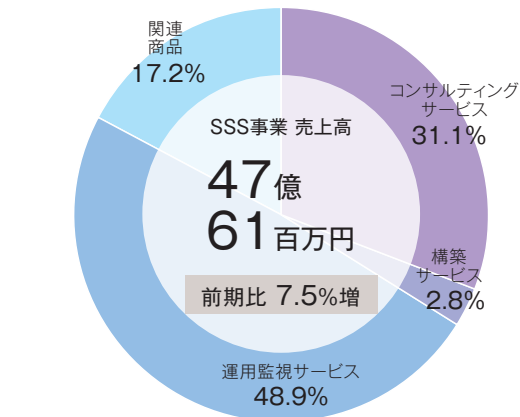
売上高 **4億18百万円** 前期比 49.9%減

前年の大型案件の反動からサーバー機器やネットワーク機器の販売が減少し、売上高は4億18百万円(同49.9%減)となりました。

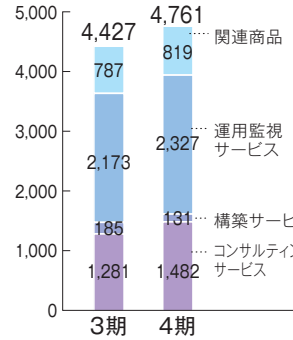
SSS事業(セキュリティソリューションサービス事業)

運用監視サービスを中心とした既存サービスのワンストップでの提供に注力するとともに、KDDI株式会社をはじめとするパートナーと連携し企業の情報セキュリティ事故対応を支援するサービスなど新たなセキュリティソリューションビジネスの創出に取り組み、売上高は47億61百万円(前期比7.5%増)、営業利益は7億10百万円(同27.8%増)となりました。また、スマートフォンセキュリティ研究所を本年1月に開設し、急速に普及するスマートフォンの安全な利用促進を支援しています。

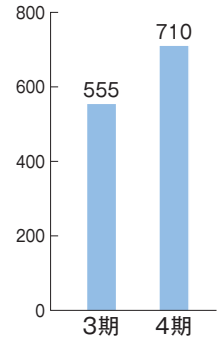
売上高(サービス別)



売上高
(単位:百万円)



営業利益
(単位:百万円)



■ コンサルティングサービス

売上高 **14億82百万円** 前期比 15.7%増

企業業績の改善からセキュリティ対策ニーズの回復を受け、セキュリティ技術者の常駐案件が増加したほか、情報セキュリティ事故の増加に伴い、緊急対応サービス「サイバー119」や教育・セキュリティ資格の取得支援サービスが引き続き伸長したことにより、売上高は14億82百万円(同15.7%増)となりました。

■ 構築サービス

売上高 **1億31百万円** 前期比 29.3%減

価格競争の激化から新規案件の受注が伸び悩み、売上高は1億31百万円(同29.3%減)となりました。

■ 運用監視サービス

売上高 **23億27百万円** 前期比 7.1%増

監視サービスにおいて既存のお客様との契約が堅調に推移したほか、診断サービスにおいてもセキュリティ対策ニーズの復調から受注を伸ばしたことにより、売上高は23億27百万円(同7.1%増)となりました。

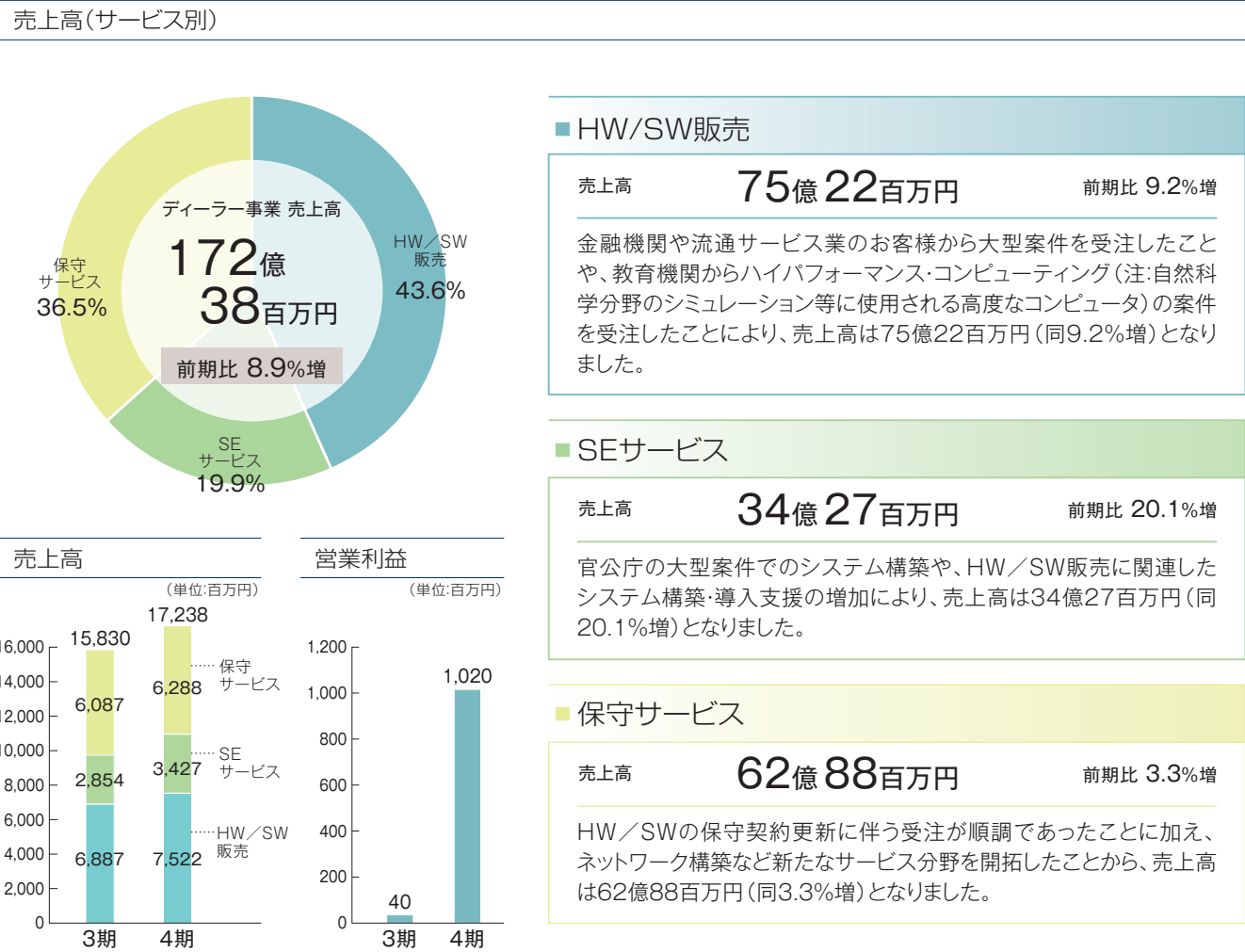
■ 関連商品

売上高 **8億19百万円** 前期比 4.1%増

製品保守の継続受注に努め、売上高は8億19百万円(同4.1%増)となりました。

ディーラー事業

安定的な営業基盤を確保すべく主要な取引先である金融機関に加え、非金融分野のお客様へのクラウドサービスを中心とした新たなIT活用の提案や、ビジネスチャンスを的確に捉え、製品、ソリューション、システム構築をワンストップで提供できる付加価値の提案に取り組み、売上高は172億38百万円(前期比8.9%増)、営業利益は、業務プロセスの見直しとともに経費節減に取り組み、損益分岐点の大幅な改善を図り、10億20百万円(同2,428.7%増)となりました。



HW/SW販売

売上高 **75億22百万円** 前期比 9.2%増

金融機関や流通サービス業のお客様から大型案件を受注したことや、教育機関からハイパフォーマンス・コンピューティング(注:自然科学分野のシミュレーション等に使用される高度なコンピュータ)の案件を受注したことにより、売上高は75億22百万円(同9.2%増)となりました。

SEサービス

売上高 **34億27百万円** 前期比 20.1%増

官公庁の大型案件でのシステム構築や、HW/SW販売に関連したシステム構築・導入支援の増加により、売上高は34億27百万円(同20.1%増)となりました。

保守サービス

売上高 **62億88百万円** 前期比 3.3%増

HW/SWの保守契約更新に伴う受注が順調であったことに加え、ネットワーク構築など新たなサービス分野を開拓したことから、売上高は62億88百万円(同3.3%増)となりました。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)		
科 目	当期末 2011年3月31日現在	前期末 2010年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	10,564	11,086
固定資産	9,578	10,962
有形固定資産	1,241	950
無形固定資産	4,790	4,914
投資その他の資産	3,547	5,097
資産合計	20,143	22,049
【負債の部】		
流動負債	7,594	9,142
固定負債	5,303	6,156
負債合計	12,898	15,299
【純資産の部】		
株主資本	7,283	6,921
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	5,675	5,675
利益剰余金	975	544
自己株式	△ 368	△ 298
その他の包括利益累計額	△ 51	△ 180
少数株主持分	12	9
純資産合計	7,245	6,749
負債純資産合計	20,143	22,049

連結貸借対照表のポイント

資 産

現金及び預金等の増加があった一方で、売掛金の回収、敷金の回収、のれんの償却などにより、201億43百万円(前期末比19億6百万円減)となりました。

負 債

リース債務等の増加があった一方で、買掛金の支払い、短期および長期借入金の返済などにより、128億98百万円(同24億1百万円減)となりました。

純資産

自己株式の取得による減少があった一方で、当期純利益の計上等による利益剰余金の増加などにより、72億45百万円(同4億95百万円増)となりました。

主要経営指標

	当期	前期
自己資本比率(%)	35.9	30.6
時価ベースの自己資本比率(%)	27.6	22.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	322.8	347.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	15.2	13.2
EBITDA(百万円)	2,781	1,852

※自己資本比率:自己資本／総資産
時価ベースの自己資本比率:株式時価総額／総資産
キャッシュ・フロー対有利子負債比率:有利子負債／営業キャッシュ・フロー
インタレスト・カバレッジ・レシオ:営業キャッシュ・フロー／利払い
EBITDA:営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

連結損益計算書(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日	前 期 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日
売上高	33,413	32,215
売上原価	26,379	25,671
売上総利益	7,033	6,543
販売費及び一般管理費	5,543	5,868
営業利益	1,489	674
営業外収益	57	83
営業外費用	245	350
経常利益	1,301	407
特別利益	381	19
特別損失	360	658
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	1,321	△ 231
法人税、住民税及び事業税	498	233
法人税等調整額	△ 32	△ 52
少数株主損益調整前当期純利益	855	—
少数株主利益又は損失(△)	4	△ 0
当期純利益又は純損失(△)	851	△ 412

連結株主資本等変動計算書 当期 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益 累計額	少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2010年3月31日残高	1,000	5,675	544	△ 298	6,921	△ 180	9	6,749
当期中の変動額								
剰余金の配当			△ 419		△ 419			△ 419
当期純利益			851		851			851
自己株式の取得				△ 69	△ 69			△ 69
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						129	3	133
当期中の変動額合計	—	△ 0	431	△ 69	361	129	3	495
2011年3月31日残高	1,000	5,675	975	△ 368	7,283	△ 51	12	7,245

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	(単位:百万円)	
	当 期 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日	前 期 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,244	2,493
投資活動による キャッシュ・フロー	962	△ 1,248
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,586	△ 1,336
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 11	5
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少額)	609	△ 87
現金及び現金同等物の 期首残高	2,375	2,462
現金及び現金同等物の 期末残高	2,984	2,375

会社概要

商 号	ラックホールディングス株式会社
英 文 名	LAC Holdings, Inc.
所 在 地	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー 電話 (03) 6757-0100 (代表)
設 立	2007年10月1日
資 本 金	10億円
従 業 員 数	連結:1,503名 個別:108名

役員(2011年6月23日現在)

代表取締役会長 (CEO)	三 柴 元
代表取締役社長 執行役員社長 (COO)	米田 光伸 [事業開発室長]
取締役	牧野 敏夫 [社長室長、経営管理本部 管掌]
取締役	中川 孟 [事業推進本部、財務・経理本部、総務・人事本部 管掌]
社外取締役	佐山 展生
社外取締役	上住甲子郎
社外取締役	林 界宏
常勤監査役	堀内 誠夫
社外監査役	酒井 富雄
社外監査役	網野 猛美
執行役員	齋藤 理 [LAC代表取締役社長]
執行役員	高梨 輝彦 [A&I代表取締役社長]
執行役員	怒和 秀昭 [ITC代表取締役社長]
執行役員	伊藤 信博 [経営管理本部長]
執行役員	英 秀明 [事業推進本部長]
執行役員	白石 通紀 [財務・経理本部長]
執行役員	鎌田 寿雄 [総務・人事本部長]
執行役員	三柴 照和 [国際事業室長]
執行役員	伊東 寛 [サイバーセキュリティ研究所長]

株式の状況

発行可能株式総数	普通株式	100,000,000 株
	A種優先株式	10 株
発行済株式の総数	普通株式	26,683,120 株
	A種優先株式	10 株
株 主 数	普通株式	6,334 名
	A種優先株式	1 名

大 株 主 (普通株式)		
氏名または名称	所有株式数(株)	所有比率(%)
有限会社コスモス	8,000,000	29.98
ラックホールディングス株式会社	1,452,390	5.44
KDDI株式会社	1,414,200	5.29
株式会社ハウスホールディングス	1,150,000	4.30
三柴 元	1,147,200	4.29
ラックホールディングス従業員持株会	939,310	3.52
三菱商事株式会社	870,000	3.26
中島 尚彦	400,000	1.49
株式会社ユーシン	398,400	1.49
株式会社フジスタッフ	321,000	1.20

※有限会社コスモスは、当社代表取締役会長三柴 元およびその親族が株式を保有する資産
管理会社であります。

所有者別株式分布状況(普通株式)

